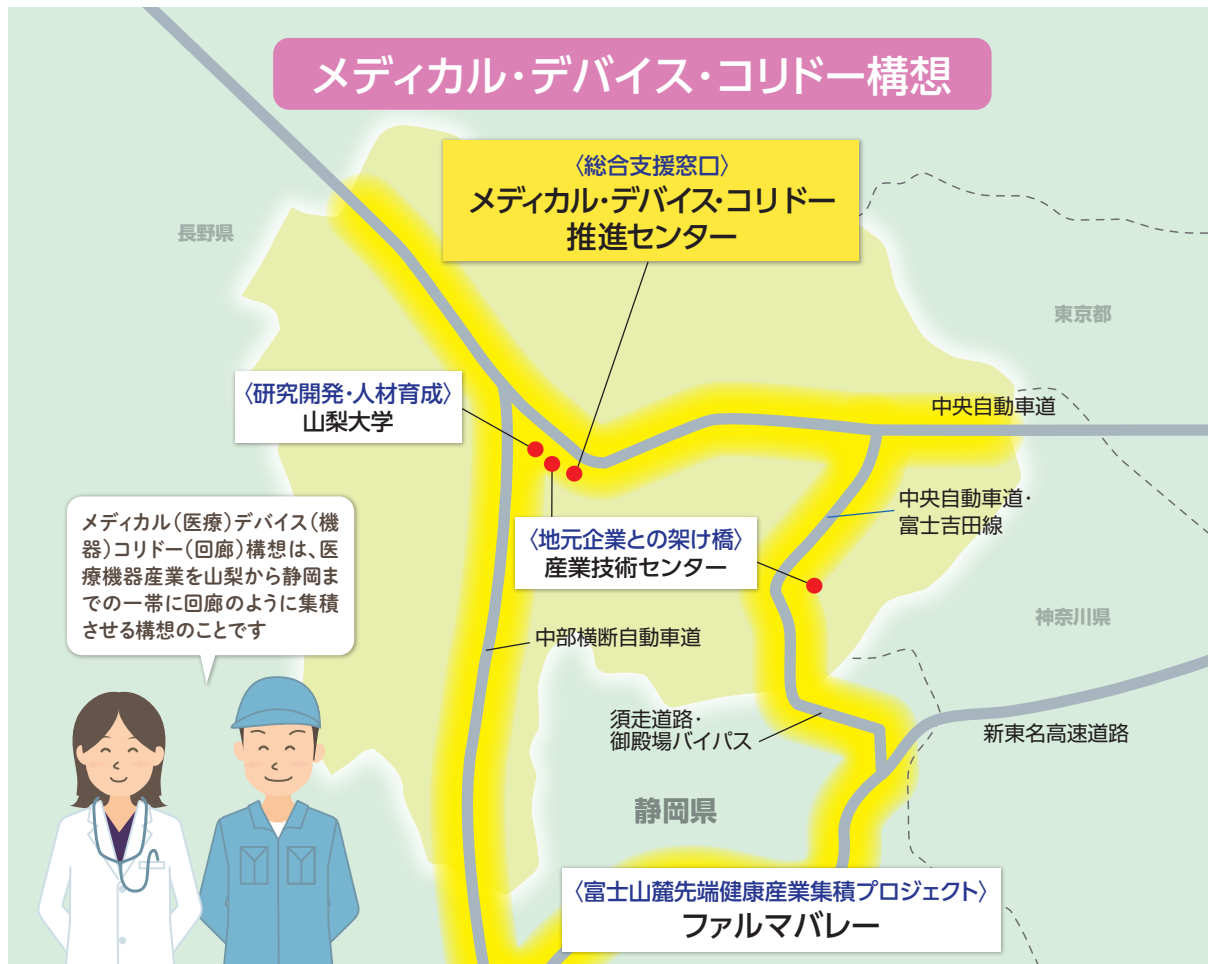


医療機器分野への進出で県内経済を活性化

医療機器分野への進出で県内経済を活性化



全国に誇る高い技術力を持つ本県の機械電子産業に、今後成長が見込まれる医療機器分野への進出を促し、県内一帯に集積させる「メディカル・デバイス・コリドー」構想」

県はこの取り組みによって製造業の高付加価値化を実現し、県内経済の活性化を目指しています。

医療機器分野進出に有利な山梨県

医療機器産業は国内の市場規模が約4兆円と大きく、高齢化や健康志向の高まりなどにより今後も安定した成長が期待できます。一方、医療機器は人の命や健康に直結することから、法規制が厳しい上、高い製造技術が求められるなど、企業にとって進出しづらい分野です。

しかし、本県には産業用ロボットや半導体の製造を支える精密加工・切削加工・研磨加工などの高い技術力を持つ中小企業が多く存在します。さらに、医療機器生産額全国首位で、医療機器産業の集積地「ファルマバレー」を有する静岡県に隣接しているため、本県は医療機器分野への進出に有利な地域といえます。

構想の実現で県民生活を豊かに

そこで県では、県内企業が持つ優れた技術を活用して、今後成長が期待される医療機器分野への進出を促し、県内一帯に集積させる「メディカル・デバイス・コリドー」構想」



高い技術力が求められる医療機器

ワンストップ窓口で進出企業増加

県では企業の医療機器分野への進出を促すため「メディカル・デバイス・コリドー推進センター」を設置し、相談やマッチングなどの支援を行っています。

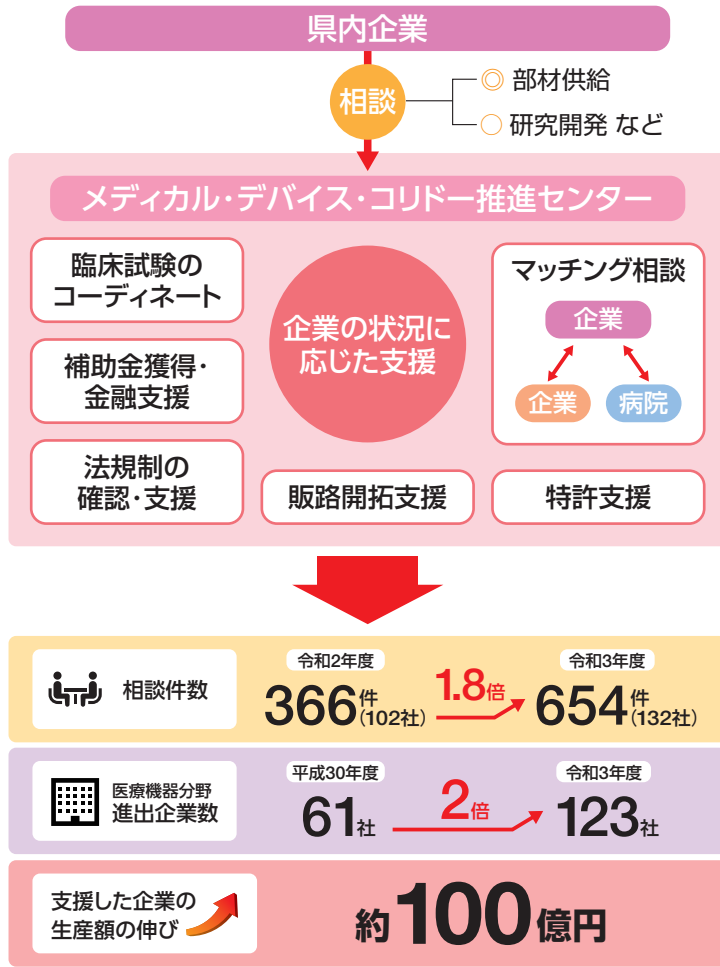
総合相談窓口の設置

山梨県は機械電子産業の層が厚く、高い技術力と競争力を持っています。こうした企業が医療機器分野に進出することは、山梨の産業の多様性や活力につながります。

しかし、人体に直接影響する医療機器分野への進出は容易ではありません。

そこで、医療機器に関するあらゆる相談を一元的に受け付ける「メディカル・デバイス・コリドー推進センター」をやまなし産業支援機構内に設置しています。

センターでは、医療機器分野に精通するコーディネーターと、豊富な企業情報を持つやまなし産業支援機構の職員が、企業からの相談に応じ



医療機器を開発・製造するには、法規制の壁や多額の投資、販売まで数年を要することなど、企業は多くのリスクを抱えることとなります。それに比べ、医療機器メーカーに部品や材料を製造し納品する「部材供給」は進出のリスクが比較的小さく、県内企業の高い技術力をうまく活用することができます。

相談内容は多岐にわたりますが、

企業に寄り添い支援

相談件数は拡大傾向にあり、令和3年度は前年比1.8倍の654件となりました。県内企業の意欲の高まりがうかがえます。



メディカル・デバイス・コリドー推進センターセンター長

手塚 伸 さん

医療機器の市場は今後さらなる拡大が期待できます。センターでは、今後も県内企業が円滑に医療機器分野へと進出できるよう、法規制への対応、資金調達、販路開拓など、企業に寄り添った息の長い支援をしていきます。



コーディネーターが企業からの相談に対応

センターではこの部材供給支援を柱に、各企業の技術が必要とする医療機器メーカーとのマッチングを行っています。また、医療機関や医療機器メーカーからの開発ニーズの収集や販路開拓、金融支援にも力を入れています。

昨年は、自動化技術を持つ県内企業が県外医療機器メーカーから新たに製品を受注したり、医療現場のニーズに基づき薬剤などを自動で搬送するロボットを開発したりするなど、センターの支援により成果が着実に上がってきています。

幅広い連携で医療機器産業の底上げを目指す

県内の医療機器産業の振興には、医療や教育、金融、行政などさまざまな関係機関と協力し産業の底上げを図る必要があります。

県では、山梨大学と連携した社会人技術者向けの人材育成プログラムや県境を越えた産学官金の交流などに取り組んでいます。

産業の発展を担う人材を育成

医療機器産業は山梨のものづくり企業の高度な技術が生かせる有力な分野です。

「医療機器産業技術人材養成講座」では、医療機器の開発に必要な知識や技術を身に付け、医療機器分野への進出や産業の発展につながる多彩なプログラムを展開しています。

医療機器は人の命に関わるため、法律による厳しい規制があります。そこで、法的な規制を学びつつ、医学の基礎、機器の設計・試作、製造販売に至るまでの一連の流れを学んでいきます。



医療機器シミュレーターを使った実習



山梨大学
融合研究臨床応用推進センター
特任教授 博士(工学)

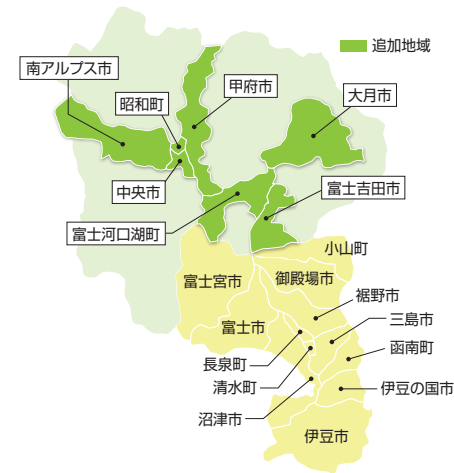
野田 智秀 さん

山梨大学の強みは、医学部附属病院や工学部との連携です。医師からは手術などで医療機器を使っている映像を見て学ぶ講義のほか、製品開発において大切な「医療現場のニーズ」をヒアリングします。また工学部の教員のサポートを受け、試作品の製作実習も行います。製品を作るのは難しいことですが、講座がきっかけとなり特許取得・製品化に向けて動き出している例もあります。

医療機器産業は市場規模が大きく、今後も成長が予想されており、ニーズの高まりも期待できます。構想を進める中で「山梨オリジナル」と言える製品が生み出され、産業が大きく発展していくことを期待しています。

静岡県との連携強化

構想の実現には、本県独自の取り組みだけでなく、医療機器生産額で全国首位の静岡県との連携も欠かせません。令和元年12月には、両県の医療分野の質の向上や地域経済の活性化を図るため連携協定を締結しました。また、令和3年4月からは医療機器の研究開発に取り組む静岡県の「ふじのくに先端医療総合特区」に山梨県内の7市町が加わりました。山梨のロボットや半導体、静岡の医療機器といった両県企業の特徴や強みを生かし、医療機器の共同開発やマッチングをはじめ、両県のネットワークやノウハウを生かした販路拡大、展示会への出展など、県境を越えた連携に取り組んでいます。



「ふじのくに先端医療総合特区」に追加された地域



県外で行われた展示会に静岡県と共同で出展



静岡県との連携協定

その結果、令和3年度には静岡県の企業などから100件を超える相談が寄せられ、両県で共同開発につながるなど、着実に成果が表れています。

多くの県内企業とともに医療機器分野進出をリード

県内企業の医療機器分野への進出をリードする、山陽精工株式会社社長の白川太さんに、山梨における医療機器産業の可能性について、お話を伺いました。

医療機器産業の可能性

私たちは成長が見込める産業を狙ったものづくりをしてきました。しかし、分野によってはいまや成熟期にあり、ライバル会社が多く価格競争も厳しくなっています。

一方、医療機器のニーズは至る所にあり、今後のビジネスとしての可能性が大きいと言えます。当社が医療機器分野に進出したのはもう10年ほど前になりますが、今回の構想はまさに私が望んでいた取り組みです。

自社の強みを生かし 県内企業と連携

私たちはものづくりの専門家です。法規制が厳しい医療機器分野でいかにニーズに添えていくかについて、専門家のアドバイスをいただければ、とても助かっています。さらにマッチング支援では、センターで選んでいただいた企業7社に当社まで足を運んでいただき、5社とのお付き合いが始まりました。これはかなり高い確率だと思っています。

山梨県のものづくり産業は全国的にみてもかなりレベルが高いですが、センターのサポートを受けながら、企業がお互いの強みを生かして連携すれば、もっと医療機器産業を盛り上げていけると思います。



医療機器に全力を注ぐ社員の皆さん



山陽精工株式会社
代表取締役社長
白川 太さん

医療機器分野で「山梨あるぞ!」という評判を全国に広め、日本はもとより世界のお客様にも、山梨の企業に頼めば安心と思っただけのブランドを確立していきたいです。

日本を代表する 一大集積地を目指して

県は、令和2年3月に「メディカル・デバイス・コリドー推進計画」を策定しました。①専門相談窓口の設置②企業支援策の充実③医療機関や他県との連携④人材確保・育成、情報発信の4つを柱に、関係機関が一体となって総合的に医療機器産業の活性化に取り組んできました。

その結果、支援した企業の生産額の伸びは約100億円に達しています。また、今年度に入ってから相談件数は従前を上回るペースで推移するなど、県内企業の関心は高く、今後も進出企業の裾野の拡大が期待されます。

今年度はセンターの人員を増やし、首都圏医療機器メーカー約500社を訪問して部材などの潜在的な発注ニーズの掘り起こしを行います。さらに、セミナーの開催や企業への専門家派遣なども継続して行い、企業の技術力を最大限に生かした取引が行えるよう、全力でサポートしていきます。

山梨県が日本を代表する医療機器産業の一大集積地となるよう、今後取り組みを一層強化していきます。

